



## 付録

- [ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード](#) (1 ページ)
- [ファブリック インターコネクットのセットアップ](#) (1 ページ)
- [WinSCP を使用してインストーラ VM に iso と img ファイルをアップロードするには](#) (6 ページ)
- [DNS レコード](#) (8 ページ)
- [HX サービス アカウントのユーザー名とパスワードの更新](#) (9 ページ)

## ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード

HyperFlex クラスタとノード制限の詳細については、『[Release Notes for Cisco HX Data Platform](#)』の最新版の「[Cisco HX Data Platform Storage Cluster Specifications](#)」を参照してください。

Cisco HyperFlex ノードのインストールの詳細については、下の表のそれぞれのリンクを参照してください。

インストールするノードの種類	参考資料
コンバージドノード数	
HyperFlex HX220c M5 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX220c M5 Node Installation Guide</a>
HyperFlex HX240c M5 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX240c M5 Node Installation Guide</a>



(注) Hyper-V は M5 サーバでのみサポートされます。

## ファブリック インターコネクットのセットアップ

ファブリック インターコネクットの冗長ペアを設定することで高可用性を確保します。L1 または L2 の高可用性ポート間で、イーサネットケーブルを使用して直接 2 つのファブリック インターコネクットに接続します。ファブリック インターコネクット A 上のポート L1 をファブリック

インターコネクタ B 上のポート L1 に接続し、ファブリック インターコネクタ A 上のポート L2 をファブリック インターコネクタ B 上のポート L2 に接続します。これにより、両方のファブリック インターコネクタがお互いのステータスを継続的に監視できます。

ファブリック インターコネクタを接続する前に、以下の情報を確認し、取得してください。

項目	説明
ファブリック インターコネクタの物理的な接続を確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 つ目のファブリック インターコネクタのコンソール ポートが、コンピュータまたはコンソール サーバに物理的に接続されている。</li> <li>• 管理イーサネット ポート (mgmt0) が外部のハブ、スイッチ、またはルータに接続されている。</li> <li>• 両方のファブリック インターコネクタの L1 ポートが互いに直接接続されている。</li> <li>• 両方のファブリック インターコネクタの L2 ポートが互いに直接接続されている。</li> </ul>
コンピュータ端末でコンソールポートのパラメータを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 9600 ボー</li> <li>• 8 データ ビット</li> <li>• パリティなし</li> <li>• 1 ストップ ビット</li> </ul>
初期セットアップに関する情報を入手します。	<p>初期セットアップに関する次の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム名</li> <li>• 管理者アカウントのパスワード</li> <li>• 3 つの静的 IP アドレス</li> <li>• 3 つの静的 IP アドレスのサブネット マスク</li> <li>• デフォルト ゲートウェイの IP アドレス</li> <li>• DNS サーバの IP アドレス</li> <li>• システムのドメイン名</li> </ul>

両方のファブリック インターコネクタが同じセットアッププロセスを通過する必要があります。プライマリ ファブリック インターコネクタをセットアップして、クラスタ設定用に有効にします。同じプロセスを使用してセカンダリ ファブリック インターコネクタをセットアップするときには、最初のファブリック インターコネクタがピアとして検出されます。

## GUI を使用したプライマリ ファブリック インターコネクつの設定

以下に示すプライマリ ファブリック インターコネクつの設定手順に従うか、または「[Cisco UCS Manager Initial Setup part 1](#)」を視聴します。



**Attention** IPv4 アドレスは、HyperFlex に必要です。

- ステップ 1** ファブリック インターコネクつの電源を入れます。  
ファブリック インターコネクつが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。
- ステップ 2** システムがリースを取得する場合は手順 6 に移動します。それ以外の場合は次のステップに進みます。
- ステップ 3** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 4** インストール方式プロンプトに **gui** と入力します。
- ステップ 5** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクつの管理ポートの IPv4 アドレス。
  - ファブリック インターコネクつの管理ポートの IPv4 サブネット マスク。
  - ファブリック インターコネクつに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス。
- ステップ 6** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 7** Cisco UCS Manager GUI 起動ページで [簡易設定 (Express Setup)] を選択します。
- ステップ 8** [簡易設定 (Express Setup)] ページで [初期設定 (Initial Setup)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 9** [クラスタおよびファブリックの設定 (Cluster and Fabric Setup)] 領域で、
- a) **クラスタリングを有効にする** オプションをクリックします。
  - b) [ファブリック設定 (Fabric Setup)] オプションで [ファブリック A (Fabric A)] を選択します。
  - c) [クラスタ IP アドレス (Cluster IP Address)] フィールドに、Cisco UCS Manager で使用する IPv4 アドレスを入力します。
- ステップ 10** [System Setup] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[システム名 (System Name)] フィールド	Cisco UCS ドメインに割り当てられる名前。 スタンドアロン設定では、システム名に「-A」が追加されます。クラスタ設定では、ファブリック A に割り当てられたファブリック インターコネクつに「-A」が、ファブリック B に割り当てられたファブリック インターコネクつに「-B」が追加されます。

フィールド	説明
[Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の Admin アカウントに使用されるパスワード。  Cisco UCS Manager のパスワードのガイドラインに適合する強力なパスワードを選択します。このパスワードは空にできません。
[Confirm Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の Admin アカウントに使用されるパスワード。
[管理 IP アドレス (Mgmt IP Address) ] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの静的 IPv4 アドレス。
[Mgmt IP Netmask] フィールドまたは [Mgmt IP Prefix] フィールド	ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 サブネット マスク プレフィクス。  <b>Note</b> [Mgmt IP Address] に入力したアドレスタイプに基づいて、システムから [Mgmt IP Netmask] または [Mgmt IP Prefix] への入力が求められます。
[Default Gateway] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートに割り当てられるデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス。  <b>Note</b> [Mgmt IP Address] フィールドに入力されたアドレスタイプに基づいて、システムから [Default Gateway] への入力が求められます。
[DNS サーバ IP (DNS Server IP) ] フィールド	ファブリック インターコネクタに割り当てられる DNS サーバの IPv4 アドレス。
[ドメイン名 (Domain Name) ] フィールド	ファブリック インターコネクタが存在するドメインの名前。

**ステップ 11** [送信 (Submit) ] をクリックします。  
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

## GUI を使用した従属ファブリック インターコネクタの設定

以下に示す従属ファブリック インターコネクタの設定手順に従うか、または「[Cisco UCS Manager Initial Setup part 2](#)」を視聴します。

**ステップ 1** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。  
ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。

- ステップ 2** システムがリースを取得する場合はステップ 6 に移動します。それ以外の場合は次のステップに進みます。
- ステップ 3** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 4** インストール方式プロンプトに **gui** と入力します。
- ステップ 5** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクットの管理ポートの IPv4 アドレス
  - ファブリック インターコネクットの管理ポートの IPv4 サブネット マスク
  - ファブリック インターコネクットに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス
- ステップ 6** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 7** Cisco UCS Manager GUI 起動ページで [簡易設定 (Express Setup)] を選択します。
- ステップ 8** [簡易設定 (Express Setup)] ページで [初期設定 (Initial Setup)] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ファブリック インターコネクットは、第 1 ファブリック インターコネクットの設定情報を検出します。
- ステップ 9** [クラスタとファブリックの設定 (Cluster and Fabric Setup)] 領域で、
- a) [クラスタリングを有効にする (Enable Clustering)] オプションを選択します。
  - b) [ファブリックの設定 (Fabric Setup)] オプションに対して [ファブリック B (Fabric B)] が選択されていることを確認します。
- ステップ 10** [システム設定 (System Setup)] 領域の [マスターの Admin パスワード (Admin Password of Master)] フィールドに Admin アカウントのパスワードを入力します。
- [Manager の初期設定 (Manager Initial Setup)] 領域が表示されます。
- ステップ 11** [Manager の初期設定 (Manager Initial Setup)] 領域で次の情報を入力します。

フィールド	説明
[Peer FI is IPv4 Cluster enabled. ローカル ファブリック インターコネクット Mgmt0 IPv4 アドレスを入力してください (Peer FI is IPv4 Cluster enabled. Please Provide Local Fabric Interconnect Mgmt0 IPv4 Address)] フィールド	ローカル ファブリック インターコネクットの Mgmt0 インターフェイスの IPv4 アドレスを入力します。

- ステップ 12** [送信 (Submit)] をクリックします。
- セットアップ操作の結果がページに表示されます。

## WinSCP を使用してインストーラ VM に iso と img ファイルをアップロードするには

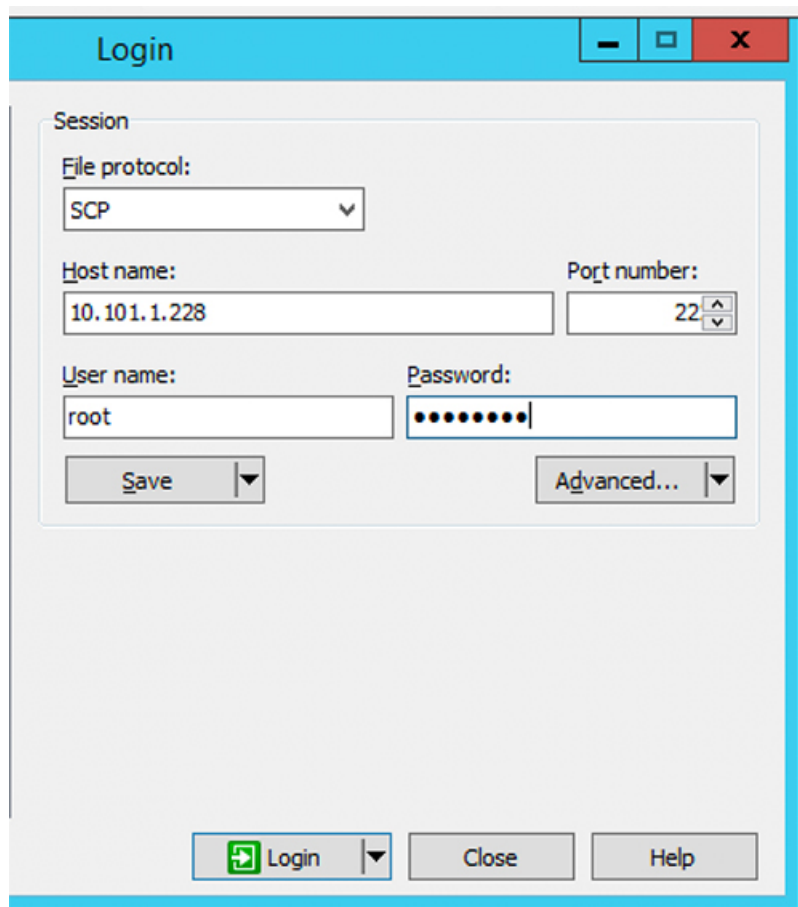
ISO と IMG ファイルのホストとしてインストーラ VM を使用し、Hyper-V をインストールできます。これを行うには、インストーラに Windows ISO および Cisco HyperFlex ドライブイメージをアップロードする必要があります。

このガイドの目的は、WinSCP を使用し、利用可能な SCP クライアントを何でも使用できるようになることです。

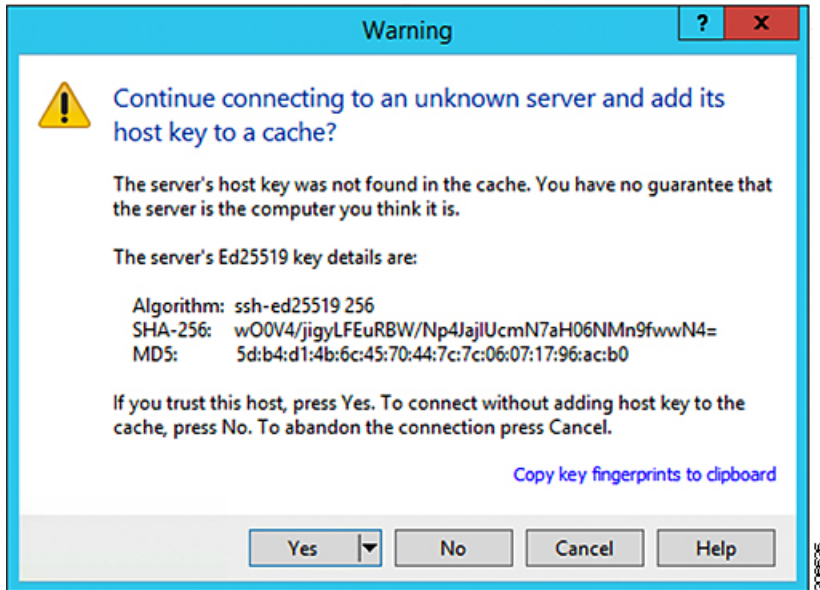
**ステップ 1** Windows 用 SCP クライアントをダウンロードします。WinSCP (<https://winscp.net/eng/download.php>) を使用できます。ワークステーションにこのクライアントをインストールします。

**ステップ 2** WinSCP からインストーラ VM に接続します。ユーザ名には「root」、パスワードには「Cisco123」を使用してください。

**重要** システム出荷時のデフォルトパスワード Cisco123 は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。

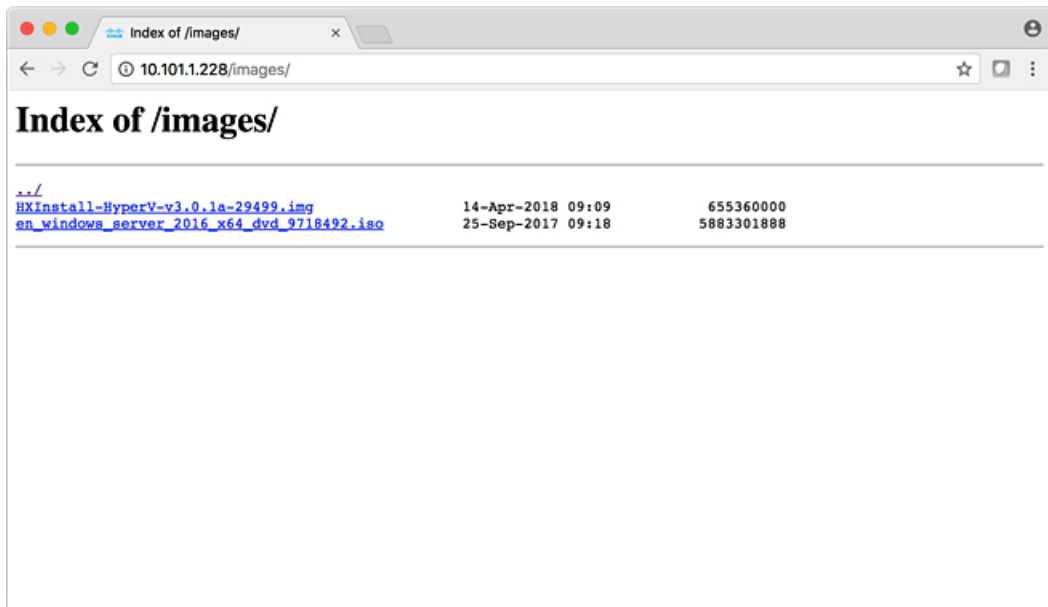


ステップ3 キーを受け入れ、キャッシュに追加します。



ステップ4 接続したら、インストーラでフォルダ `/var/www/localhost/images/` を参照します。マシン上でローカルファイルが保存されている場所を参照してください。

ステップ5 ファイルを転送します。ブラウザの URL にアクセスする場合ファイル名をコピーできます：  
`http://<controller_IP>/images/ </controller_IP>`



## DNS レコード

次のリストで、ご使用の環境に追加する必要がある DNS レコードを参照してください。

Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername



# HX サービス アカウントのユーザー名とパスワードの更新

パスワードの期限が切れた場合、または自発的に変更された場合は、HX クラスタ内で新しいパスワードを更新する必要があります。Cisco HX サービス アカウントのパスワードを更新するには、次の手順に従います。



- (注) VM とデータストアへのアクセスは、引き続き新しいパスワードなしで動作します。ただしクラスタで、アラート、システム ステータス、サポートバンドル、データストア アクセス レポートに問題が発生します。

## 始める前に

Cisco HX サービス アカウントのユーザー名が次の形式であることを確認します。

```
<username@domain.com>
```

**ステップ 1** クラスタ内のいずれかのストレージコントローラ ノードから `resethypervcred -u` コマンドを実行します。

例：

次に、コマンドの出力例を示します。

```
root@cvmhv1:~# resethypervcred -u
Enter service admin name:administrator@domain.com
Enter service admin passwd:
Enter local admin name:administrator
Enter local admin passwd:
Hyperv creds updated successfully
```

各コントローラ `vm` に `root` ユーザとしてログインし、`hxHyperVSvcMgr` の再起動を実行します。

リセットとサービスの再起動が完了したら、HX サービスアカウントユーザとして **HX Connect** にログインし、ログインが機能し、**HX Connect** にクラスタ情報が表示されていることを確認します。

**ステップ 2** HX サービス アカウントのユーザー名を変更するには、`resethypervcred -u` コマンドを実行します。

例：

```
root@cvmhv1:~# resethypervcred -u
Enter service admin name:newhxuser@domain.com
Enter service admin passwd:
Enter local admin name:administrator
Enter local admin passwd:
Hyperv creds updated successfully
```

